

文化遺産ニュース

*Cultural Heritage News
from NARA*

Vol.
23

March 2011

- ◎ 研修レポート 集団研修／個人研修・モンゴル 1-2
- ◎ 文化遺産ワークショップ ラオス・ビエンチャン 3
- ◎ 研修レポート 国際教育交流 4
- ◎ 国際会議 「伝統技術の継承と人材養成」 5
- ◎ 国際セミナー 「モンゴルの考古学—最新の遺跡調査事情」 6
- ◎ 世界遺産教室 6

ラオスの世界遺産紹介



集団研修

9月7日～10月7日

2010年9月7日から10月7日まで、アジア太平洋地域の16カ国から16名の研修生を招き、「遺跡の調査・保存と活用」をテーマに研修を実施しました。



開講式

16名の研修生は、それぞれの国で政府機関、大学、研究所などに勤務し、文化遺産の管理、保護、修復に携わっています。研修は、遺跡や遺物の調査・保存修復・管理活用などについて、最新の方法・技術を習得することを目的に実施しました。

開講式では、主催者であるACCU、文化庁、ICCROM、国立文化財機構の挨拶の後、来賓の奈良県、奈良市からもご挨拶をいただきました。

研修では、文化遺産保護制度や保存科学、環境考古学、年輪年代学などの考古科学分野に関する講義だけでなく、研修生それぞれが、自国の文化遺産保護に関わる実情について発表し、研修生同士で意見交換することもしました。

遺物の記録方法では、実際に石器・土器を実測し、遺物の観察方法や図



イクロム代表の挨拶



石材表面の剥離箇所を検出する試験

の描き方を習得しました。

また、臨地研修として奈良県内はじめ、各地の遺跡や文化財関連施設に赴くことによって、遺跡整備と管理・活用や遺物の管理・公開の実際を肌で感じ取ることができました。

カリキュラム（概要版）

講義

「遺跡保護の国際的動向」「日本の遺跡保護制度」「遺跡探査概論」「遺跡・遺物の保存科学」など

実習

「遺物の記録方法」

臨地研修

平城宮跡、石舞台古墳、新池埴輪製作遺跡、吉野ヶ里遺跡、九州国立博物館など

報告討議

研修生自国の「現状と課題」についての報告と意見交換



土器実測実習（遺物の記録方法）



平城宮跡（遺跡整備と管理の実際）

個人研修

モンゴル

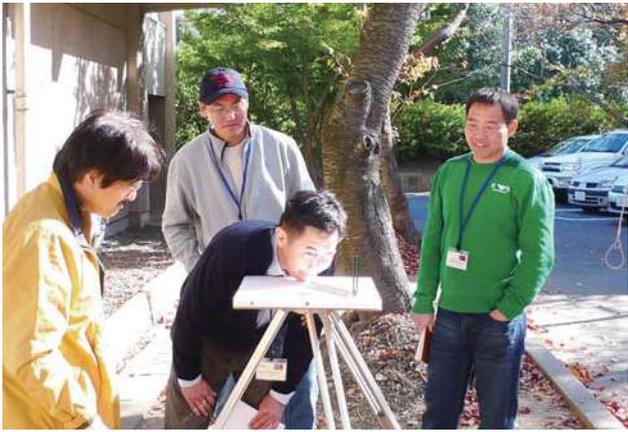
11月16日～12月16日

2010年11月16日から12月16日まで、モンゴル科学アカデミー考古学研究
所から3名の研修生を招いて研修を実施しました。

個人研修は、その国の個別課題に
対応した専門的知識・技術を習得す
ることを目的とした研修です。

昨年度に続き、今年度もモンゴル
から3名の方を迎え、約一ヶ月にわ
たる研修を実施しました。昨年度は、
保存科学に限った研修でしたが、今
回の研修は、遺跡や遺物の記録方法
や管理・活用等について、広く知識
と技術を習得することを目的としま
した。

研修は、講義、実習、臨地研修を組
み合わせ、さらに、考古学だけでなく、
保存科学など、文化財保護と密接な



平板測量実習（遺跡の記録）

関わりをもつ自然科学の分野の講義
も加わっています。

遺物の記録方法については、まず
石器の実測方法を学び、次に土器を
対象に、遺物観察のポイント、実測図
の描き方を中心にして実習が進みま
した。また、瓦については、その時代
の変遷や製作技術の移り変わりに関
する講義を受けた後、軒瓦の文様の
拓本を採ることもしました。

臨地研修では、遺跡の整備と管理・
活用、遺物の管理・収蔵と公開の実
際を、現地の遺跡や博物館、埋蔵文化
財センターなどを訪れて体感すると
ともに、訪問先で機会を得て、活発な
意見交換も行われました。

カリキュラム（概要版）

講義

「遺跡の記録」「遺物の記録方法」「年輪年
代学概論」「環境考古学概論」など

実習

「遺物の記録方法」

臨地研修

（奈良県）

平城宮跡、法隆寺、橿原考古学研究所附
属博物館など

（他府県）

吉野ヶ里遺跡（佐賀県）、九州国立博物
館（福岡県）など

研修生からのメッセージ



バイルサイハンさん

研修に参加し
て、発掘調査・
研究方法・遺物
の保存処理・写
真撮影法・遺物
の展示法など考古学の基礎を学びまし
た。日本では、研究者だけではなく一
般の人々が考古学に寄せる関心が高
く、自国の文化や歴史を大切に保護し
ている事に感動しました。



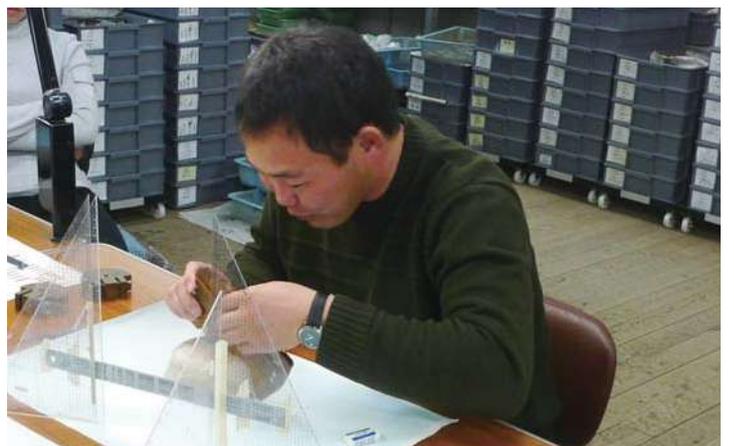
ムンフトルガさん

日本国内の遺
跡や博物館など
を訪ねて、多く
の文化財を見学
し、古代日本文
化についての理解を深めました。念願
の京都や奈良の世界遺産も見学し、保
護保存の状況がよく分かりました。文
化財を守るためには、国による法整備
が重要だと実感しました。



オドスレンさん

モンゴルで
は、石器時代の
遺物の実測図作
成は、ロシア式
でおこなってい
ますが、今回の研修で学んだ日本式実
測図作成法を今後の研究で活用してい
きます。遺物の写真撮影方法では、特
に側面や俯瞰からの撮影技術に興味を
引かれました。



土器の実測実習

ラオスの首都ビエンチャンで 文化遺産ワークショップを 開催しました

アジア太平洋地域における文化遺産保護に携わる人材を養成するために現地に講師を派遣し、その地域の実情に合わせて行う実践的研修「文化遺産ワークショップ」4年目を迎えた今年度は、ラオスの首都ビエンチャンで開催しました。

ラオスには「ルアン・パバンの町」「チャンパサック県の文化的景観にあるワット・プーと関連古代遺産群」という二つの世界遺産があります。

また、首都であるビエンチャン市内には、ラオスの象徴ともいえるタートルアンをはじめとする、数多くの仏教寺院が建ち並んでいます。

今回のワークショップは、「考古遺物の記録方法」をテーマに、11月1日から6日の間、国立文化会館を会場に開催しました。

研修には、ラオス各地の文化遺産保護部局や博物館などに所属し、文化遺産の調査・研究・保護に従事する15名が参加しました。

開講式は、ACCU奈良事務所の西村所長とラオス情報文化省のトンサ局長による主催者挨拶のあと、来賓を代表して在ラオス日本国大使館からもご挨拶をいただきました。

研修プログラムは、「土器実測概論」からはじまりました。講師は檀原考古学研究所の入倉徳裕さんと奈良市埋蔵文化財調査センターの中島和彦さん

んで、実際に粘土で土器を作って、実測の必要性・土器の製作技法・観察の視点について講義がありました。

土器実測実習に際しては、最初に講師が実測用具を用いて土器を測りながら実測の要点を説明し、その後、研修生各自が、ビエンチャン市内の発掘で出土した土器を用いて実習しました。また、コインや土器片の文様を拓本で採ることもしました。

研修の後半は写真撮影です。講師は奈良文化財研究所の杉本和樹さん。研修生は写真の原理と撮影方法について講義を受けた後、4×5の大型カメラを用いて実習に取り組みました。

現地調達できる資材を用いて遺物撮影用の簡易撮影装置を組み、遺物の配置や照明方法などについても実習しました。

最終日には、入倉さんと中島さんから研修の総括と講評があり、その後、閉講式で研修生それぞれに修了証書が手渡されました。



閉講式



土器実測実習



写真撮影実習

文化遺産保護指導者研修 交流プログラム

6月21日～7月1日

アジア太平洋地域の11カ国から、文化遺産保護に携わる指導者11名を招き、6月21日から7月1日まで11日間の研修を行いました。



一条高校の生徒さんとの平城宮跡見学

日本の拠出金をもとに、国際連合大学の「新世紀国際教育交流プロジェクト」の一環として実施するこの研修では、日本の文化遺産保護に関する理解を促進するとともに、大学生や高校生との国際交流により、若い世代のネットワークづくりを支援しました。

カリキュラム（概要版）

講義

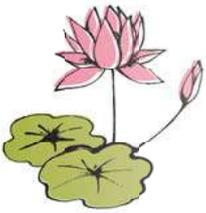
「日本における文化財の保存・活用」
「文化財に及ぼす大気汚染の影響」など

臨地研修

（奈良県）
民俗博物館、橿原考古学研究所附属博物館、法隆寺、明日香村など
（京都府）
金閣寺

交流

奈良大学での講義及び研修生のプレゼンテーション及び学生との意見交換会、奈良市一条高校の生徒と平城宮跡での交流及び意見交換会、京都ノートルダム女子大学の学生との意見交換及び金閣寺での交流・木版画版元での版画体験



研修生からのメッセージ

アンドリヤティ・ラハユさん（インドネシア）
インドネシア大学文学部考古学科 講師



プログラムはとてもよくアレンジされており、日程についても大変効果的に組まれていました。ACCUCU奈良は講義だけではなく、奈良の世界遺産への訪問や、高校生や大学生との意見交換の場を通じて知識を与えてくれたので、全体としてとても充実した研修になりました。

パダム・ラジ・ジョシさん（ネパール）
ユネスコネパール国内委員会文化情報通信技術部 事務官



私たちはアジア太平洋地域の異なる国々から参加しました。私たちの共通の目的は、文化遺産の保護と文化遺産の価値を相互理解し、広く知ってもらうことです。この研修で私たちは、文化や慣習、生活様式、価値観の交流を行うことで、アジア太平洋地域での文化遺産保護の実態をより深く学ぶことができました。この研修は文化チーム遺産保護に携わる若いリーダー達にとって、スキルや相互理解、専門知識や能力を高めるとても良い機会となりました。

キム・ジョンさん（韓国）
ユネスコ韓国国内委員会文化コミュニケーション



プログラムは、研修生決定からはじまり、すべてにおいて非常に的確でスムーズでした。特に、空港での出迎えのために送られたACCUCU奈良の緑色のシールにはとても感激しました。ACCUCU奈良が海外の研修生に対して、大変気を配ってくださっているのがわかりました。様々な講義や臨地研修、若い生徒さん達と交流などとてもバランス良く構成されていました。美しい奈良や京都では、日本の文化や歴史を学ぶことができ、とても充実した時間を過ごすことができました。



奈良大学での意見交換会



木版画版元での版画体験

●国際会議 伝統技術の 継承と人材養成

2011年1月26日から28日
奈良県新公会堂にて



会議の様子

今年「伝統技術の継承と人材養成」を大きなテーマとして掲げ、特に「建造物修理における法制度と木工」について、文化遺産として木造建造物を有するアジア太平洋地域の国々から専門家を招き、話し合いました。最初に、ユネスコバンコク事務所文化事業部長のティモ

シー・カーティス氏により有形遺産を保存するための無形遺産の伝承について、続いて日本からは東京文化財研究所長の亀井伸雄氏、中国から山西省都市住宅整備部長のリ・ジンシェン氏より、文化財建造物修理のしくみと現状の課題について、基調講演が行われました。そして文化庁武内正和氏より、日本における伝統技術の保護について事例報告が行われ、続いて中国、韓国、フィリピン、マレーシア、パキスタン、日本といった国内

外の専門家によって、各国における木造建造物修理の現状と課題について、事例報告が行われました。総合討議では、各国の現状と課題をふまえ、木工に関する伝統技術の継承と人材育成のためには、木造建造物の特質やそれに関わる伝統技術やその職人の現状を理解し、技術や職人だけでなく、それらを取り巻く環境に対する経済的・政策的な支援が必要であり、さらには政府の支援と同様、NGOや地元住民の参加も必要であるとの共通認識をはかりました。



ティモシー・カーティス氏



全体記念写真



談山神社での伝統技術の説明



モンゴルの草原 ※背後の丘はチントルゴイの烽火台跡(写真提供：千田嘉博氏)



鹿石(写真提供：ムンフトルガ氏)

●文化遺産国際セミナー

モンゴルの考古学 —最新の遺跡調査事情—

2010年11月28日、奈良大学講堂にて

A C C U奈良事務所では、より多くのみなさま方に、文化遺産保護の大切さについて理解を深めていただきたいと思います。毎年、文化遺産国際シンポジウムやセミナーを開催してきました。

今年、モンゴルから研究者が来日するのに合わせ、国内から、モンゴルの遺跡調査と研究に携わる第一線の研究者を講師に迎え、モンゴル考古学事情について、最新の情報をお話ししていただきました。

最初は、奈良大学教授の千田嘉博さんで、「草原の城郭都市を掘る」。奈良大学がモンゴル科学アカデミー考古学研究所と共同で進めているチントルゴイ城郭都市遺跡の総合調査について、共同調査で明らかになった城郭の形状や規模、窯跡と工房や東門の発掘成果についてお話しをしていただきました。

続いて、国際日本文化研究センター研究員の山口欧志さんには、「デジタル技術が拓くモンゴル文化遺産の未来」と題して、近年急速に開発が進むデジタル技術を用いたモンゴル文化遺産の記録・発信・保存の取り組みを紹介していただきました。

休憩をはさみ、奈良大学非常勤講師清水奈都紀さんからは「カラコルムの遺跡と人」と題して、モンゴル高原のほぼ中央

に位置し、モンゴル帝国の首都があったことでも知られるカラコルム(現代のモンゴル語ではハラホリン)における、遺跡と今に生きる人々の生活や生業との関わりについてのお話しがありました。

最後は、モンゴル科学アカデミー考古学研究所研究員のリンチンホロル・ムンフトルガさんで、演題は「モンゴルにおける最新発掘成果—石造建造物の現状と保存—」です。

モンゴルにおける6〜8世紀の各種石造物の現状を紹介し、研究によって明らかにされた様々な劣化に対する修復計画などについてお話しをしていただきました。

当日、会場では、約200名の聴衆が遠くモンゴルに思いをはせ、講演に耳を傾けていました。



オロンノルイン・フンディ 渓谷の石の囲い(写真提供：ムンフトルガ氏)

世界遺産教室

次世代を担う青少年の方々に、文化遺産保護の重要性を楽しく学んでいただくために、A C C U奈良事務所では、毎年、奈良県内の高校を訪問し、日本や諸外国の世界遺産を題材にした「世界遺産教室」を実施しています。

今年度も、世界遺産に造詣の深いお二人、久保美智代さんと小野以秩子さんを講師にお迎えし、県内の6校で開催しました。

講師の方には、世界遺産の意義、成り立ち、抱えている課題などについて、映像とクイズを交えながら、お話ししていただき、生徒のみなさんからは、とても良かった、分かりやすかった、との感想が寄せられました。



クイズを交えながら進める世界遺産教室(於：高田高校)

ラオスの世界遺産紹介

表紙の写真：ワット・プー遺跡（ラオス・チャンバサク県）



ワット・プーと周辺の遺跡

10～14世紀の寺院として知られている世界遺産のワット・プーは、ラオス南部、カンボジア国境近くのチャンバサク県にあります。レンガや石で築かれた建物は、カンボジアを中心に栄えたクメール文化が及んだものと理解されるようですが、建物には再利用された石材が多くみられ、以前にも在地の建物があったと思われます。

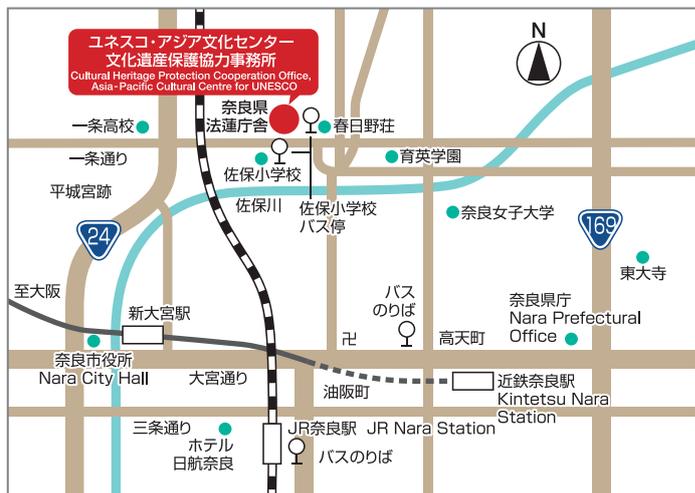
シダ遺跡

ワット・プーの南約1kmにある10～11世紀頃の遺跡です。アンコール王朝があったカンボジアのシェムリアップまでをつなぐ道路沿いにあり、中継地としての役割を果たしていたようです。東から石敷きの長い参道があります。中央の祀堂やテラスなどに大きな石材を使っているのが特徴ですが、保存状況は悪く、多くの石材が崩落しています。



トモ遺跡

メコン川を挟んでワット・プーの対岸にあります。十字形の中央祀堂は破壊が著しいのですが、前面には低いテラスが認められます。祀堂から南北に延びる翼廊には、二つの東西方向建物がそれぞれ接続して南北に向き合い、その間は広い中庭のようにみえます。東の築地から入って門までは約250mあり、壮大な寺院であったことがしのげられます。



財団法人
ユネスコ・アジア文化センター
文化遺産保護協力事務所

Cultural Heritage Protection Cooperation Office, Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO

〒630-8113 奈良市法蓮町 757 (奈良県法蓮庁舎 1階)

TEL 0742-20-5001

FAX 0742-20-5701

URL <http://www.nara.accu.or.jp>

E-mail nara@accu.or.jp

交通アクセス

- 近鉄奈良駅から
 - 徒歩約20分
 - バス13番のりばから「西大寺駅行き」または「航空自衛隊行き」で、佐保小学校下車すぐ
- JR奈良駅から
 - 徒歩約25分
 - バス7番のりばから「西大寺駅行き」または「航空自衛隊行き」で、佐保小学校下車すぐ